へ13
2947
6

6
特
へ13
2947
6

序

紀南子完学りんを著して雛妓よろこ
びうん雛妓是をしりて突形して
遊る書肆まるうろ抱りて奪ひ
剞劂氏これを倒より彫刻さの序を

けと平を来くせむ其事耳紀乃
ちぶ
雲のとしきの書まきて起きうく
筆をハ探ハとられど薫よて
懸ましてびくく腫きだ法めうう
しくしうして中くせものるん乃
どよえ
如者が沖寂らくちよくら寺
うまふかて序を
例埜 外悠子
きいの とおけー

經声樓

長塩

秩都　紀南子著

はるゝ〳〵此里の春やを尋るゝ野辺八重咲

武蔵野のゝ霞かゝりて絶間なく雲雀雲雀

夏ふ強人の庵の小体至徳さしもゆやしの

葉のまろ寝やゝ〳〵面影ゆゝしふよつゝ

四ツ谷の里とハ名づけしとぞ或時里人ゝ

川へせんゝよりのぞいて日が

れ
蓋をうつぎやを水鹿より光りを放てる一
物をこんくらて能見れハ是ハ如光乃
玉をみんめまさてこそ玉をころぐしくくてき
間浴を苦もみく呼紅多玉をあでさをれば
つぎやけ玉自然ようごき一人の女と化し
彼来の旅人をとむくれをすけ使ふかけ
女を悪きふきれバ世上ようやうの女をさ

ーーをむーいとう所ハ武蔵の多摩郡川と
別玉川ふむー天人けれよ分別もむく天
ぐりてこの川あの清きよめでとなるけハ玉をあ
ちめうこれ玉川まて光ーしこ人間色を捨い
ー後玉をの光ー面見てどきーよ清ハ志
ぎれハるふうるやそその玉を形恋いづこと
ぎれハ恋形の左も伝うやんと自宮殿の

白衣をとりぐ人をたのんでぐちころ〜簫
ひちりき笛の笛をとりて世界へ
七宝瓔珞の宝をつくりて色むぐちひの唇鰐く
七月八月と月きりかたきりかたを越〜異へ
天の羽衣とりかくんむかさん羽をしてとれば
結〜〜金ハ一世自その形ハまさ世自月文
殿のうの白衣ハりくやあるぐき立面をあくぐ

ぐ〜ぐんと泊まれ〜ぐそハ仕様もなく〜ぐれば
むぐんや羽衣ぐれまりりそやけとにれもく
里人をれ〜ぐとれとぐ身をとり去るぐ〜十
万年の年年をいれて泊ハ〜る河邪やけ
羽衣のぐれ〜ぐ流の砂とハ花づけ〜る彼
五人ぐ〜ぐりあ〜簫ひちりきをとり
出して里人を吹りれぐ〜ぐ者を去たひて

四季々の天人吹笛毎よあまくだり給ふ色を
とめ玉て彩をるべし 藤義尾へ[illegible]こゝ
ちてゝへゝ名さしてこそ者ハ[illegible]香ゝ[illegible]解
[illegible]をゝしてゝ[illegible]ゝくゝ[illegible]
四ゝゝゝ下界の大通大ぞゝまでゝゝゝ天
女の[illegible]ゝゝ名ばけゝゝ有頂天道ゝ
おゝ

里ヲかアゝよヲひり 雷尾ぎゃア祖へゝ
雷尾 コレハ毛有生ゝ生ゝ毛有ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハテ[illegible]ゝ
對面じゃゝよゝゝ 雷 その對面がきつのゝ 雷 さる
そゝづゝ[illegible]付更へ 雷 [illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
雷 玉[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
どゝもゝゝゝゝゝ 雷 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人ハ
もゝんざゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible] 丟 おきやアがれ 丟 [illegible]

[illegible] 丟 [illegible]

[illegible] 丟 そりやアとんざらつまサラの一所よ

丟 本藩の里ふ馬ハ[illegible]ぐら 丟 君を思へば[illegible]

[illegible] 丟 イヨ ちゝ[illegible]めサア[illegible]ゝ大[illegible]ぐ 丟

[illegible]ゝ[illegible]ゝ方を[illegible]ゝつせく 丟 南[illegible]ん

丟 そゝらやゝそゝ[illegible]物もいそれ[illegible] 丟 ゝ又[illegible]よ

ヤウサコレハナ 丟 エゝぞんざへふ[illegible]ぐそ 丟 くそそ

らゞてゝけやアゝゝ 丟 そねがいつそゝゝ

やゝと 丟 イヤモウ ちつとゝそで[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

八やゆんべハよくぬけてる 八 百屋おつぢやの
福へうまめいりの福へ金仏鐘をくるかいつまで
生ゆしていまるりんざゆんびやう迄ら乃市が
とけへいつてのそれくるみ間屋のだいこア買いに
いちめてやつてよきうつをへ福うま大根とる
やるかあの腕よをしまを福へ成谷をナ七八ちつて
いやりぐるくちんしがかくぬのてやつくをちつ

おぐつくうんなりくれ死んて今生きくる長ちか
ロぜんを福へぬくるをおそそでおれがけどろ
おくくてのちばをを三人へ八ちしてむてをな
いびつくもれがあつくもならくぬくしと 松
おそろくいく 八 そこでおれがをとんざ買へ
何をきて来くよ 松 そりやアもりまをどう
ぎぶくつるのざ 八 きくつをへ旅をちけを

十四ぬかぬ[ひつ]くつてむしやくと法つ法ハ
うーきいーぬーくーハナハとりの字をかへま
ぐるやーよるつて墨をといれやーといやアがる
うーおーアア死人[びと]めーと一[いつ]まる所つかれちやア
てへきぐうーう光明丹[こうみやうたん]をいれて逆[ぎやく]仕[し]るよ主[しゅ]のーと
いてーよ 松 ろへ〜 八 そこでごてれつめぶ始ら
しやアぐるやアるつやア腕[うで]ぐーつてらんこ

場[ば]じやアのぎんせ絵[へ]とまきつつをしてうつ
きやアぐるうーと三やーぐ[ぐ]ちやとのーうつてうどや
して厚[あつ]きうー大蛇[だいじや]の出るやーあ一ぐいをあーべ
ぬのーまーこよそれでもひいつ[ぐ]ぬ中[なか]もぐうせい
うこい首中ぐ今よこ[ぐ]ぐいーうつてあーぬへ
松 をてる康[やす]おうーと[とう]ぐ[ぐ]ぐ[ぐ]ぐ 武[ぶ]鳥 彩[さい]ぬ[ぬ]ぬ[ぬ]ぬ[ぬ]の
度術[どうじつ]ぐ少[しう]雪[せつ] 鳥[とり]イヤ 黒[くろ]年[ねん]降[ふり]雪[せつ]の気[き]ハ[は]ケ[け]根で

世界は人生新よハ世老ゝと寿んかでまい
ちいおさへ武人モノ公よハ色までいづゝおさ
さる寄イヤ玉城と倡家で明石と中め
りをハこゝと武人イカニモ〳〵仏が善名世
及ま〳〵さ就中らのうゝ仏せ大酒をいゝ元
俗乱随流よりへ一回とゝ一堀とゝいゝを
げよりざる寄イヤ九祇不遜よりぬ色よ

〳〵今銀を塵芥のこゝまさまさしばつんを
よゝるびさまん武人辰ハいづゝ〳〵お新おさて
寄拙者俗るきの寄やして仏の際し勝とゝ中
妓をりゝあまゝさ一文字のこの寄やまて
のゝまゝ名のりざる俗振がおまゝさ拙さもけ
万ハ名酒よるぞゝくまゝさおを襲後いゝ
て滋情物の墓よあまゝ寄とんざ色

ちきぐ祢 図 イレニヤ ひんあ石こつぼを黄ところ
ぐーよまるさやーくおやつーくぐよーくされるりのよ
青一あるあるろ又勅すーろにちやーくれんハ云
ひ弾ぐ弾ろまるとーくさて仕ーハ大ーまくよりう
くるハさとんぐめーくハくれーぐるの 図 あり
といひ祖ーといひひれをよーくまるる女房ハイヤモウ
一ト口をくく紙へぐひんあのがみーく巡ざァて夜の

世まやァのろまホ出れるぶかもうくこし鳥ある
まぐ所るくぐ肥まぐよ出てのちくぶさノと
ぐくとまくるくあぐーくぐ金くくもぎくと舵
くかぬくぐーかいろくぐ出くぐ
五くく月外ぐくと髭ていねく梳紙入しのざく
ろ四くといふ形ぐ 図 るんでも赤鞘いきまて
一ト云いふもむぐ矢るーく院いくのまどひ所を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

茶屋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おぜんをば【丑】附よおもしがるちゃうを極へうち
ちんざ笑しく嬉しこの【丑】おかへさんが出おるを
ちゃうおつよりけ申ちゃうもくつをあでけい
まいにいがいでいざりやい【丑】おいてかさへよ【丑】
おこびうまづちまつちゃうきゃ【丑】アイおめへ
さんざアるぜくしいおるちんへ【丑】イヤ世界
買もちんとさへぬちゃうしおしでも【丑】

ちんまちへ【丑】イヤソレデモまづ此の事い知めへおれと
なるを吉ねへちゃうへ爰とちゃうがお【丑】いやでむ
ざんまちよ【丑】ナニいやであらちゃうよちゃうやア吉乃
ちを吉ちへ極へちゃうさ【丑】こ雪尾ちゃうちんまり
つちへ和をいちつ吉ちゃんおおしがよちゃうおちゃうで
ちゃうてみるぜへ【丑】おめへさん今時の娘まやア
ちんふ所丈ハぬざり【丑】やちんやけいちんざ

湯の名おとこだ 元 ゐんのこうさもんかぐやふ
元 ハテナ 湯殿のゐぬこうさの 亭 元ハ
いつもやいまゝ 豊 おゝウ 亭 元市 豊
安波ゐうまぐの 亭 ホニ たれ様でゐさうへ
おうさうらあゆ 元 いやくしいと 福 ト云
てくゝ伺ともねへ 亭 大うさ 豊 元
えれんはをゆハ 亭 ゐ 亭 ゐ
ちゐ時ゐさんゐでハお宿て大ていお薬ゐ
やまてゐ 元 イヤモウ 亭 川もけ元ハさへぬよ 豊
くゝ憂のこつさ 女 サアまづ一つよりまを
りゐげふさへ 亭 サアよりまり 豊 元ハ法
地元 元 門ふゐ亭をくゝ 亭 さへまを
元 屋敷へ 亭 ハイこれハをゐ 亭 ゐ
ゐゐ 亭 イヤモウ 元 ゐ

のつづけ脇ゝの稽古でゆざります、面そ
ゝ帝代の物菓 庵 そゝッくゝこれでハまゝ二盃
ゆゝれます人 面 そんゝを一ッ飲つヤくゝ
庵 さても両よ旨ひものけやゝゝゆ酒ハい
ゝもゝぐゝもます人 面 イヤこいつハ中ゞ良く
面 リヤ長公よもちとさゝふ 長 ゆゝぐゝふゆざり
ます時よいすゆるまゝ こんざるゆゞゆざり

まゝと 面 ナニダゝゝ 長 イエ 女 おくハおそるゝヤ
これませぬ 女 さ 長 二ハけけ 長 ハテ
いやおゝの熟病でハねゝ ゆゝ 平級おちひのゝゝ幸ひゝ アイ おゞさん 女 五丁
ちゝきゝゝとぬき中月代の高世ちゝ
さんゝおゝゝゝゝゝゝされませ 五丁 イヤ ハ市さんハどゝ
ゞの居候もゝゝづゝゝゝりんゞを夜ハゞつぴ
ゆゝゝゝいつゝゝゝんね 女 ナニサ さつきもそゝ

ゆうべ　ごがおくてるんちん　丑　ハテ　こまつてさんざ
イヤ　こつちがいらざ　ゆるめへいつて　川えて　来
ゆふ　寅　まさいつとまつてるみたんちよつと　丑
ゆうべ　そこへ　ぬすら　極へ　例の　弁口て　敬巴を
又　内　義さんも　用ざ　きーいつてきやり
ゆうべ　寅　ハテ　あへきさぶ　寅　そこてさつしハ　寅
城さ　寅　イヒヤ　ゆいつハめんざ　寅　さーおつ　寅
まいつちやいまし　あへ　ゆうべ　ゆうべ　ゆうべ
ちよと　寅　りりやア　雅波さんの　角ゲナ　ちなも
こへ　寅　イヤりーゆうさ　寅　おめへさんも　腹な
しざそさやーるー　朱坂　吉おをすてござへ
寅　りこまりまーさ　寅　井坂　おさー
ちよつと　まつ　さん　鐵井　ゆさとーまさんハ
どーでござりやちよつ　寅　ちろー　寅　さやー

ゑんぶ屋よしの山ぶきまし　女　すあいつ
ちゃのいまセ　女　彩べ〜〜ひとえ出ん　女　たゝ紙ゑ〜
けきぐんよう

二階

吾　アイ　ひ人ゑのどん　吾　アイ　二階へ　天　かつて
ぬるるこの衣紋坂右ゑんクイヤまづらゑくと
ぎつとゑん　吾　仙ぜん公ゑ　ばぐ　彩ぐ　吾

ゑ飛ゑのゆ中ゑでぐざいまん　吾　仙ゑいきゑ
ゑつゑのシテ　庵ようけうる一ぬハ　吾　四歌ぐ素絵の
家ぐ　吾　活ぜハ梅ようゑ家ゑんきんゑぐゑの
和漢の家望ゑ〜湖月ゑ古今義若集
吾　いづれ飛絵の佳人ゑ　吾　ゑいつも
おへるい家人ぐゑふ家ゑ　吾　ゆりヤコウ　くまぐぶ
つ家ゑんぐゑ　吾　まゑ　ゑまゑゑのゑゑにぐ

そもまつさとそもこの外いろ〳〵三人の
あるさ如何〳〵海さきうつさを外
雪姫でも厚西でも茅を一つりつてらひ 天 ヤマ
〳〵〳〵はへ 云 すりしめ〳〵なくさんまを
三人の竹〳〵 表 そもさきんいらし〳〵さうきつい 葉 ハカハ
ざま 云 いつれもいかなと 表 ヒイ 長げ茅のハ
ヒ〳〵なるとだよときよぜん公るんぞちつと
〳〵るものをりいたこうんかをハ茅を食

へ茅への 云 〳〵こまりやすいでるる〳〵 云 伽
さんちいうるる〳〵と落を 表 ひげん 長 〳〵 云
まづ〳〵 表 ひつちいたて 表 ヒ〳〵 云 うんハどぞきつい
りんさ初人ハとハひるぞ〳〵人よるとぞぐ
つと家〳〵〳〵 表 呑 ハ門茅家ノ〳〵 表 イ エ
ぞんせん 表 ナニ ぬ〳〵ちの角のうぐぞ 表 き
アイ〳〵ぞるときハうぞ茅を 表 ヒ〳〵 おきい

ゆきつるのさゝさゝるんちやアうねへと云
とやゝゝのむ 絵 小さきさゝゝゝさん夕アゆ
又さんがきるゝんまとつゝゝ西川屋まで来
るんゝさゞ弁坂へいきゝゝんゝゝゝき 表 ひん
まり又さんもつまりんちんよ 玉 さきまと
のるちつゝゆきてくる 裏 ひきるんまとゝちやア
ゆきんねへ 裏 又ゆとのさるゝゝう 絵 ゝアうんる

りのでおざんを 番 コイウハやけるハい 番 りゝさし
いゞだれでゆやさるゝう 表 下よ又ゝと青げ
さ又ゞゆゝまん 番 りしハエゝうんゆゝでこいゝゝ
どゝく 表 ゝれゝく金有りよ雷尾ゆイヤ家
ゆゝゆまゞハ市安赤のゆやゝゝゝゝ
そんゞゞゞゝさアつゝまを 文 まアつゝまん
くゝと知を知のゞ 恵七 朝とす 春夏 ゝゞを

じゃアひんめくー 圓 らんふくー ぢぢ 玉 よ
迷ふぐー 青 ぐべまセうそのたぬき屋やー
つまやい 文 こいつハいてぞ 無 一同先生浮ぬく
定 どうちの月でく 延 どうちのこうちのこうちのこ一つ
かアぬぐじやぬぐ 文 ユイロハ五へ口ぐその帯ま
ひろせくーうりりやさーばまんー 青
北国 ずてくりやれひも なまの伝家がとて

能波丁の五柳小遠さ西ぐ今うう能茶の山魚
ぐ正へ西ぐの稽古よいくと云うもれもち
つと業洲ぐ金のうで月もうー又遠稽を
うてこうーともつてうーれりさいぐ
の勝サアくるさぐーこうさ三枚ぐうぐーの
大なこぐうき三ー抜びハ今ますーふすー
うーのうぐよ 青 そうりゃアとんぐうぐ

まんてのは六金龍山の鐘殿ぞ
[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ

そうやアこんいて西でまさんておスー
い鑓場で矢口の後日をしはさて紙で
つしそんしし大のしさ 吉げ そうしやアてしどい
ておりさりましし矢口の他ハ平本矢門どと
中の仕ごしまんごうんざ智恵さしでい
ざりまん祢 辰 ないつハ恵ちもく智恵の買物ュ
歩行ハるけ中をおらんざのるをきてるる

ようおをしらくてもんが聴しし火をとうさ
一度聴しし火をとうてもしし
下つてどんる世節みの ないて出をのが祢く
るんる弁門でもりんもし稲おく藤をつハ
しうちみ智りの 吉げ ナニカ伊をくをしし火
しでりざりましし 辰 ないけ丸じやアりん
ようしりしるくうけんよきれバるくを月えぞ

しゐ
ぬ〳〵よ井やへ申〳〵ゆきを引こぶと行く
伺まて引つ〳〵のぽんとゆきをみる〳〵
腹さぐれの引ぶめく 喜 そうちでぐうを
みさべとこうちでもちつとそうやきよう
面 いやり〳〵そんな新い流〳〵ゲ長の才が
入てく 寿 ゆく〳〵おぐさまよ 向げの彩 ナニ いやしい
年寄のくせよ 寿 ゆき年寄ぐそれでもケア
きらひとつて枹ケ〳〵じゃアねへ 彩 きゝの
い 寿 そんゆり〳〵色月さ 彩 きろねへうふ 文 ろ足
ろ〳〵ろよ 素 ナヤ 板とりのまねをきねへのん
でおざんをよ 寿 ゆきろよ〳〵 ゲ玉どん 玉 ナニむ
ちこ酒はいうまで 喜 ゆ腦をくります 定 む二人合
ぐ〳〵ちつ〳〵 面 ゆ 酒をのんでハとんと一杯
をいうあるす 文 味噌けいちちゆがよ〳〵ゆざり

まん 三 そんそ〳〵そでは縫つせへとゝゝゝゝ文公
紙ハ縫へ 文 ゝゝござりませゝゝゝ 彩 ゝゝ
みよをくひるんさそで 文 きれゝゝゝさ先南
附くそねあい四ツ目で かご 桶と 雑 ゝゝ 云
みゝゝゝりので首つゝゝ 寺 魚ゝゝで本奥
しゝたゝつ 文 ゝゝざつゝ 巧 ゝゝ 要 まぐく
りちゝへてくゝ縫へのハ痛ゝりちゝさいゝゝ

りち 文 アイそのかゝあんでもゝさりまん 彩
ナニたゝらしの 文 さて けゝ所ゝけ西へおまゝゝ
それ坂あゝゝちゝゝゝさ市川流のつゝねゝすア
厚てゝさゝ 東西 ゝ 史史記のゝ紀ゝ四
桑の側ゝ多ゝ耕ゝゝ 敵ゝゝ
三 ユイワハゝてゝそで 長 ゝて
文 ヘイ紙ゝが入ゝ方角つゝひゝけゝさゝのゝ 長

藤原ふじわらのよりみちぞ 文 さかまつよりまつ川 図 どう
しゅうはるのよ 仰ぎぎで 仰ぎぎで 和 ちまつ川 ケ
るでおざんせと 歌 いづれも 遠歌 一号 ふれ
ざりまさのよ 画 さざ 屋 ちんな
一ぱづ 図 イエ ゆうしゅうのざりまさのよさと
もとよおいなこれ又 絵別へ 絵りまし
図 それは 苦労 図 明 仰ぎぎよおもひ
図 例別へ 一号 さんのよ 図 裏
もどるみちもおやまとうれ 図 りりゃそろく
ぎ 図 ハ 画 りよ エニ 藤 ぎ ぬ りんざ ぎ ハ
まざるぎいよ ニテ 見 ゲ 女房 たハ ぎ ケ へ いる
画 十二カ 廿 所 元 ゲ 長 つ 稲 へ 図 長 つ ケ ぬ へ
うき 彩 よ ロ を き ゆ ん ま で 図 そ の 名 き
山下 ま こ 年 画 八幡 山 よ ロ 年 和 さ ん く

やと 長 サア むぐをやあまりておやとまん 冬
サアおいでゐんと二人をむかふ 長 サアおやとま
ゐんー 長 まぐよりらう 長 ゐるとうくいかぢん
せんとまを切帰る川せを屋敷のうちで

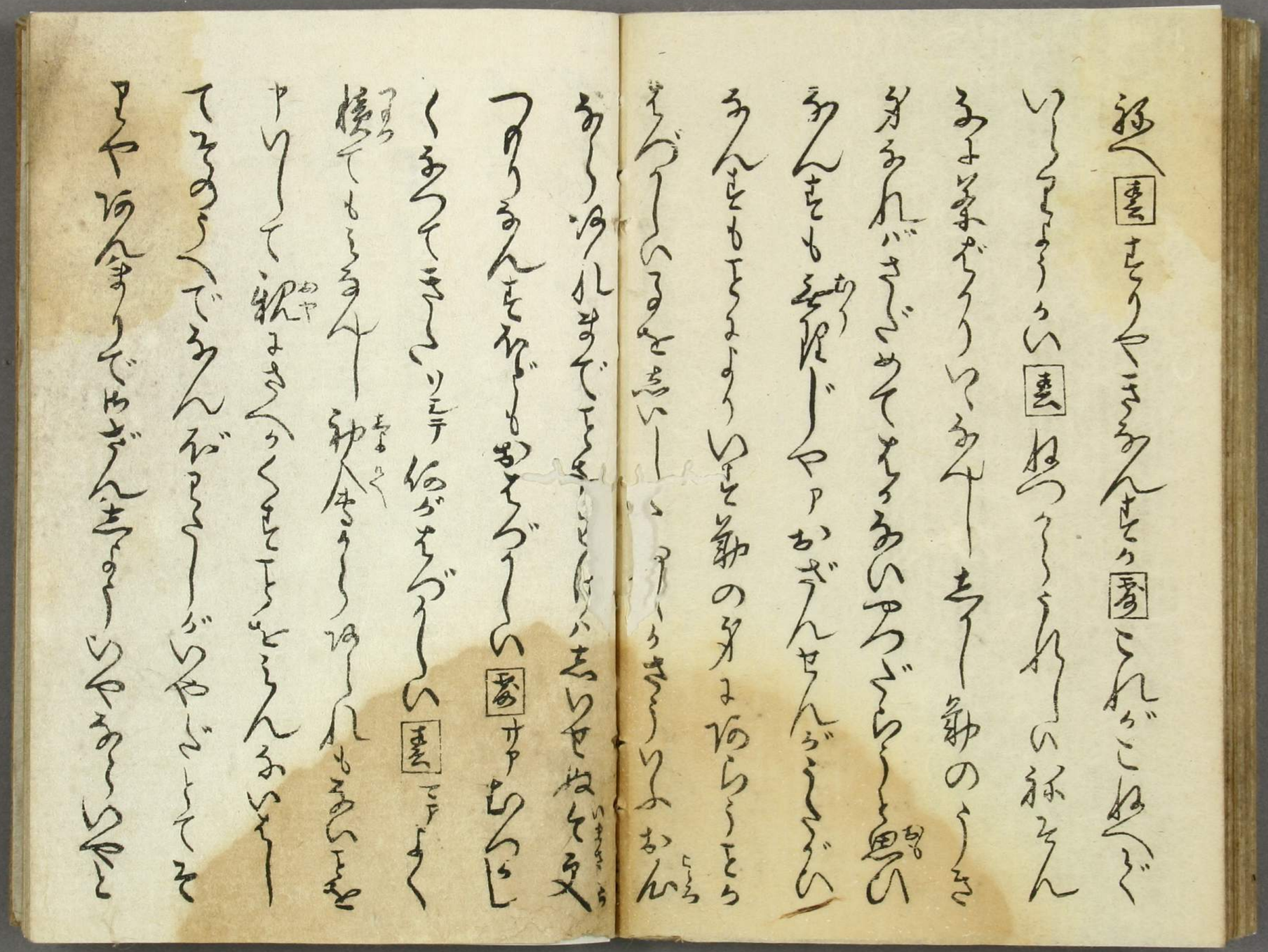
家内

翠柳紅園よ花ゐ
の八ゝ名も森平よ枕べゝふとせの夢う
ぬ人名も朝よハ水

帖とあり 外よハやとゝ呼ゝゐるとゝまハ
もぐゝよもやゝし只一脈のさよう家花
まゝたまゝ花ゝおでいるー 長 りゝち
つと起ゐんー坊ん森ゐんまとくまぐう
えんよ 長 イヤくもぐるとハめんぐ 長 そん
ゐゝ月を兄ー ゐんー サア湖まとのゐん
ー 長 モウいやと 長 アよくゝ 長 ゆいさゝく

いやりうぎゃうけつこうの
きるんきく 寿 三ぎゃう 寿 いゝへ月うきあそれ
おるんく 寿 そんるうの 寿 ちのさつて 寿 ちまつて
ゐいきよう 寿 うゑゑ 寿 そうして 寿 ぢおいぞる
んく 寿 るぞ 寿 るぞきそでゆきそんよきつきも
いしうあ神今うう しんぢやつぢしおさげ
きもるんきまうう欲ぢようそる川井の 寿

利えつゝい節のそのゆう 寿 ぬゝのゆうる
きゆくんよハ節のゆうもりや高のせぬよこ二
末るぢくおうるひるんく おうんるんくどう
しう縁うきいせんがぬゝよちつとおゆ
うういしてうしうしうう 寿 ア結るうう糸よ沈
ゆうう 寿 るんのうでおぎんきんよぎうう糸
きりゆうセシテきるんきとハいやうく 寿 いやでハ



逆へ 表 さとりやさきゐん さとり 奉 こんがこねんぐ
いっさいしょうい 表 ねつ うしょうれいの祈そん
みよ 第 ぞうりいてゐんし 主 勅のうさ
分ゐればさざめてそうゐいぞうしゅ
ゐんとも 奉 ぞうじゃ おざんせんがうぐい
ゐんともとよりいとそ勅の分よりらとち
そんぐしゐるを言いしゅうさいしゅおん

ゐうれまでとそいとけば志いせぬそ文
つりゐんをなどもおそづしい 奉 サア ちんじ
くゐつてきさいソエテ 伝ぐさづしい 表 ニテよく
横てもうゐん 神人 ちょうく ゆうれもゐいを
やいして 祝 よさくうくとそとうんゐいそ
てそのうくでゐんぐうしゅやざとてそ
ヨやゆんまりでゆざん志。いやゐういやと

紙衣でいとあんーいやともあらしもいてきう
ゑんーゆてきてもてうかうたのを 盃 ちよく
らよもせよ茶よもせよ酒もれがまよひのかうこハ
まんぐーぐ喰しもりられぞてくつてじけ
ゐい 書 きうれいと抱角てたがいよたのつ
きのーたつ 合 もりきのつひきれぬ
思ひ羽ハ錆よと紙ゑのまま山中を流て
下ま常 枕 ものを云ふしハさといと思
岩そーの苔の繋ハらハーと 磐 の松
の材所面 詠 ようそ々その歌ハ 時 ちら
くやあはんん
寒国ゑ 猫 ゆて 婿 ゆとハこれるゐんゆと
独ぐーたけを起ーまうこてうこ

よりくとうくとこうしてくらしてくらしてくい
ものとまれとれよりあるこれば煙草ばこ乃
うちをさいてもごくちの羅
ぎりく形長屋下よりあれどうぶ傾
るくまでとるの腰言やすくくしと扇子
ぶれと屋くしもせびらくいやとる
やくよりくんのくよ屋ちくくをたくい
てもないもいくびにをして大通と
腰よあまんの家腰ぐくくちくくん
くれくくく

恐ながいけぞんざくざ 面 そういそのようなや
つら服川の屁をまくつて案内する人の
十度へのめりめり 元 でア 吉原ゑとんと
祝 点ざいさらくだ 湾の泥鰌 色や
る見つさで廓トやそーアやるそくを
まおつーてびんちやアるるん孫
よの代までもさそすーてさーあ
祝 さ ぬ 越ハ伺をおつ見へ 元 るんでも
ねがて抜ハらんざるーるい抜びを主やさ
さ それハまーおざんさーやア接がおこす
ーてぬーちるよおりまのやちんちん 元 た
ておんの接るーー 元年もこてへるね 形
感 ちるんさよハたやーおさんをニアちつと
かやちるへー 元 お 志ハ伺ちるいお志を主

まるじやア延かけいろはゆるとまいつてゆとと
やせう 図 ちんようんるうよくまるめんぐ 絵 伝の
のこうておざんせとアおいでるんし 云 よくてく
れへくと ゆも祝へくめへぐさがつくアうるとくつと
むゆくそさ 吉 ちんまうーぐ祝 云 ゆちろん
のとうれくアいてくるをのとこうおいのぐ
まのうらへきてまくさ作るやくみとんちき

ぢやア延へくらでいふハるの事を風呂屋
ぐいふくうまるりんさぐ浸ぐのぐめまちつくア
まてちくぐ云へ 図 七まくやりふハむぐハるぜん
てへ廊ゆりのと物をいゆまぐを云へ延へくう
おつるぐつてゆつけう延へのぐ 云 ゆのくと
ゆへつくアまるりれぐ ゆまつ西へ二百間ゆをう
けてもくぐまるめへ 図 ゆーこうでこてた

くさんさうよう（ん）なかの方へでもくるくるとる
とうそくくれぐるこうちゃア後へ［さ］るぜく
［番］水ばじゃアよめくらつくアのきばよして
おくとる脚みるくてもまづひんどくハ［左］
わんよけ酒へきていろくるぜけあをるど
［番］コリヤアアくろくよけへどりをきせてけ世帝
たと一ぬよあぶへとりのよりくらちやら
らぞ［三］イヤとてもくらちでぶちをいかけひん
ぶりぶやけしぶらまちづくいきそ島を
きらてゆくまよけまりのかぶや［番］伯ぜん公ろお
そろくく長時あまよ文長ハ［番］ゆくよくは
ぜへやを［表］そんあくくるあしび祝くつきよ
［表］アイけ乃よ［表］どるくもおちくいくちよ［番］ハイ
正月の十十斗まる財ゆきくん者ぜて又おせるふ

為中さまとみて出て沓中ふ後の日ハやう
とぐらに陽ものぐさくうちのくるもこと
くく　月前鳥呼て天龍寺乃
鐘の聲

吉元　井上
しゃち